

# ダイビング経験が大学生の環境保全意識に及ぼす影響

常深 真由 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 黒澤 毅

キーワード：ダイビング経験，大学生，環境保全意識

## 1. 序論

スクーバダイビングは、年齢やジェンダー、体力、障害の有無に関わらず行うことが出来、ネイチャー・レジャーの分野で既に社会的に広く認知され、確立された<sup>2)</sup>と考えられている。武<sup>4)</sup>は、ダイバー人口が増えるにつれ、当然のごとくダイビングスポットにおける環境破壊、環境汚染の問題が叫ばれるようになってきたと述べている。このような問題に対して、実際に水中環境に触れる機会の多いため、ダイバーは他者よりも環境保全意識を高く持つべきだと考え、ダイビングを経験していることで環境保全意識はおのずと高くなると考えられる。こうした背景を受けて、近年、ダイバーによる水中の清掃活動やビーチクリーン活動などの環境保全活動が各地で行われている。そこで本研究では、ダイビング経験が環境保全意識に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

【調査対象】実験群：2014年度、2015年度のB大学の授業として行われているダイビング実習に参加し、ダイバーとして認定される「エントリー者向けコース<sup>1)</sup>」のCカードを取得した大学生20名(男性15名、女性5名)。

統制群：B大学に通うダイビング経験のない3、4年生20名(男性15名、女性5名)。

【調査方法】ウォーターワイズ研究会<sup>3)</sup>が作成した向社会的行動(6項目)、海洋環境・文化の保全意識(6項目)、創造力(2項目)、海への興味・関心(3項目)、海洋環境に対する認識(4項目)の5因子計21項目で構成されたウォーターワイズ効果測定尺度を用いた。さらに、「今までに海でのマリンスポーツの経験はありますか」、「あなたは海や山の近くに住んだことはありますか」、「あなたは幼い頃、海や山で遊ぶことが多くありましたか」の3項目について2件法で調査を行った。

## 3. 結果及び考察

実験群と統制群の環境保全意識の因子別の比較を行った結果(表1)、「海への興味・関心」因子において有意な差がみられた。B大学におけるダイビング実習は選択授業であり、受講生が自ら希望しダイビング実習に参加している。「海への興味・関心」があるからこそ受講しダイビング実習に参加したと考えられる。さらには、ダイビング経験により、水中の世界を感じた経験や、海の生き物を見

た経験による影響も考えられる。

「海洋環境・文化の保全意識」においては有意な差がみられず、両群とも低い得点であった。本研究のダイビング実習は「エントリー者向けコース」であり、講習に環境についての項目は含まれていないことも、低い得点となった理由であると考えられる。一方、「向社会的行動」因子及び「海洋環境に対する認識」因子においては有意な差はみられなかったが、高い得点であった。すでにこれまでの経験や知識として備わっている内容であったと考えられる。

表1 実験群・統制群の環境保全意識得点の平均と標準偏差及びt値

| 因子           | 実験群 N=20   |  | 統制群 N=20   |            |
|--------------|------------|--|------------|------------|
|              | M(SD)      |  | M(SD)      | t値         |
| 向社会的行動       | 18.9(2.72) |  | 19.7(2.28) | 1.01 n.s.  |
| 海洋環境・文化の保全意識 | 14.8(3.29) |  | 13.8(2.15) | -1.12 n.s. |
| 創造力          | 4.0(1.62)  |  | 3.9(1.27)  | -0.33 n.s. |
| 海への興味・関心     | 9.3(1.72)  |  | 7.9(2.11)  | -2.38 *    |
| 海洋環境に対する認識   | 12.7(2.18) |  | 12.3(1.81) | -0.63 n.s. |

M:平均 SD:標準偏差

\*p<.05 n.s.有意差なし

マリンスポーツ経験、幼少期の自然活動、生活地域の違いが環境保全意識に影響を及ぼすことは無かった。環境保全意識には、経験の数や内容の深さ、参加形態などが大きく影響し、生活地域の違いについても、どのような遊びや経験をしたかという内容が影響を及ぼすと考えられるため、今後の課題としたい。

## 5. まとめ

ダイビング経験のある学生は経験のない学生よりも「海への興味・関心」についての意識が高い。また、マリンスポーツ経験、幼少期の自然活動、生活地域の違いが環境保全意識に影響を及ぼすことは無かった。今後は、対象者の経験を詳細に検討し環境保全意識を明らかにする必要がある。

引用・参考文献

1)ダイビング指導・ダイビング講習BSAC JAPAN公式サイト

(<http://www.bsac.co.jp/>) 最終アクセス：2015年12月13日

2)株式会社水中造形センター公式サイト(<http://marineartcenter.com/>) 最終アクセス：2015年12月17日

3)国立室戸青少年自然の家(2007)：ウォーターワイズ研究会、海の自然体験活動が果たす教育効果の検証と今後の方向性－ウォーターワイズプログラムにおける教育効果に関する継続研究，pp. 30-

32

4)武正憲(2008)：カヌー活動を事例とした野外レクリエーション活動家の環境保全意識と環境配慮行動の関係